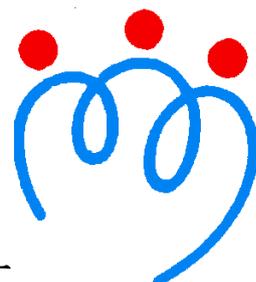


2016 年度

ミラークよこすか

事業報告

社会福祉法人 電機神奈川福祉センター



目次

1. 事業の概要

- (1) 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3p
- (2) 法人設立と施設設置の経緯・・・・・・・・ 3p
- (3) 施設概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3p
- (4) 2016年度事業目標と年度末事業結果・・・・ 4p
- (5) 2017年度事業目標・・・・・・・・・・・・ 5p

2. 2016年度事業報告

- (1) 利用者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・ 7p
- (2) 訓練プログラム・・・・・・・・・・・・・・ 9p
- (3) 就労支援と定着支援・・・・・・・・・・・・ 13p

3. 2017年度に向けて

- (1) 自立訓練事業の廃止と就労移行支援事業の定員増・・ 15p
- (2) 2016年度の支援プログラムの課題と改善点・・・・ 15p
- (3) 新プログラムの導入・・・・・・・・・・・・ 15p

1. 事業の概要

(1) 目的

障害を持つ人が社会自立できるよう支援する。

(2) 法人設立と施設設置の経緯

1972年、電機連合神奈川県地方協議会（以下、地協と呼ぶ。）は、第20回定期大会において、労働組合としては全国に先駆けて障がい福祉活動を開始した。地協は、神奈川県内の電機・電子・情報機器関連産業に働く組合員で組織された産業別労働組合である（2015年3月末現在109単組・支部、組合員数75,736人）。障害をもつ人も「ともに学び、遊び、育ち、働き暮らせる社会」を目指した障がい福祉活動は、国際障害者年の理念でもある「ともに生きる社会づくり」への大きな潮流につながった。

この活動を20年にわたり続けてきた間に、障害をもつ子どもたちの育ち学びあう場は広がり、選択できるようになってきた。しかし、学校卒業後の進路は依然として厳しい状況が続いていた。

そこで、地協の障害福祉活動のさらなる展開として、1991年に「電機神奈川福祉センター設立準備委員会」を設置し、1995年3月に神奈川県より社会福祉法人の認可を受けた。

1996年には「ぽこ・あ・ぽこ」が事業を開始（「横浜南部就労援助センター」は法人設立前（1992年）に事業を開始）し、これまで横浜、川崎、湘南地域で、障害者の社会自立や一般就労を中心に支援を行ってきた。

2013年に新たな事業展開を検討し、横須賀地域での障害福祉サービス事業所開設に向けた調査を開始した。2014年10月には「横須賀新事業所開設準備室」が設置され、2015年1月1日に「ミラークよこすか」が事業を開始した。

(3) 施設概要

【事業所指定】 （2015年1月より） <ul style="list-style-type: none"> ● 法的根拠：障害者総合支援法 ● 事業指定者：横須賀市長 ● 事業所番号（サービス種類）：1411901760 [自立訓練事業（生活訓練）・就労移行支援事業] ● 指定日・事業開始日：2015年1月1日 【利用対象者】 <ul style="list-style-type: none"> ● 原則として65歳未満の知的障害者・精神障害者 ● 定員：自立訓練事業（生活訓練）6名、就労移行支援事業14名（2016年4月1日に変更） 			
所在地	横須賀市大滝町2-15-1 横須賀東相ビル6階		
交通機関	京浜急行線 横須賀中央駅より徒歩4分		
Tel	046-821-3450	Fax	046-887-0480
開設年月日	2015年1月1日		
建物構造	鉄筋コンクリート造9階建（横須賀東相ビル内）		
面積	専用部分 219.17 m ²		
設備内容 （共用部分）	食堂・作業室1・作業室2・男性ロッカー・女性ロッカー・倉庫・事務室・相談室・ （男性トイレ・女性トイレ・給湯室）		

(4) 2016 年度事業目標と年度末事業結果

年度目標	年度事業報告
重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 27 年度の利用希望者の状況を考慮した結果、平成 28 年 4 月に就労移行支援事業 14 名、自立訓練事業（生活訓練）6 名へ定員変更を行います。また、自立訓練事業（生活訓練）に対するニーズ調査や事業継続性の検証を行い、平成 29 年度以降の事業廃止（就労移行支援事業の定員増）も含めた検討を行います。 ● 支援プログラムを改定し、幅広い層の利用希望者の受け入れと実状に応じた支援が提供できる体制を築き、事業所経営の安定を目指します。プログラム改定に伴い、発展強化計画における受注作業をベースとした支援から、講習・外部作業（実習）・ワークサンプル等を中心とした支援への転換を図ります。 ● 効率的な事業所運営のシステムを構築し、施設内支援、就労支援、職場定着支援をバランスよく実施できる体制を築きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 28 年 4 月 1 日付で就労移行支援事業 14 名、自立訓練事業（生活訓練）6 名へ定員を変更しました。利用希望者や地域ニーズの調査を行った結果、平成 29 年 4 月 1 日付での自立訓練事業（生活訓練）を廃止するとともに就労移行支援事業の定員を増員することとし、行政への届け出や関係機関、利用者等への周知を行いました。 ● 支援プログラムの大幅な見直しを行い、見直し後も四半期ごとにプログラム内容の検証と修正を行いました。また、平成 29 年度の事業内容変更に向けた準備を行いました。 ● 所属する職員数で常時プログラムの開催や就労・定着支援が実施できるようプログラム内容の調整や業務の精査を行いました。就労者へのフォロー体制を築き、平成 29 年度の事業内容変更後も視野に入れた業務遂行体制へ変更しました。
1) 就労移行支援事業(14 名定員)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 新規利用者 10 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 13 名を目指します。 ● 年間 7 名の就労者を輩出し、就労支援機関として認知度の向上を目指します。 ● 7 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦、横浜南部地域での職場開拓に取り組みます。 ● 職場定着支援対象者に対する支援の方向性を検討し、イベント等の必要性や地域との関係機関との役割分担等について検証します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 17 名の新規利用者を受け入れました（事業移行 7 名を含む）。 ● 1 日あたり 15.1 名の利用者を受け入れました。 ● 就労者 9 名を輩出しました。 ● 15 名の利用者に施設外実習の機会を提供しました。 ● 新規就労先の開拓を積極的に行い、4 件が就労に繋がりました。 ● 12 月開催の利用者忘年会に就労者を招待し、2 名が参加されました。29 年度に就労者、利用者合同のイベント開催に向けて準備を開始しました。
2) 自立訓練事業（生活訓練）（6 名定員）	
<ul style="list-style-type: none"> ● 新規利用者 1 名を受け入れます。 ● 年間 3 名の就労移行支援事業への事業移行を目指します。 ● 就労移行支援事業と比較し、自立訓練事業（生活訓練）の利用希望者が少ないことを鑑み、地域のニーズ調査や事業の継続性について検証し、次年度以降のあり方を検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4 名の新規利用者を受け入れました。 ● 7 名の利用者が就労移行支援事業へ事業移行しました。 ● 平成 29 年 4 月 1 日付で自立訓練事業を廃止し、就労移行支援事業を増員することを決定しました。

3) 運営全体	
<ul style="list-style-type: none"> ● 日々のミーティングや全体ミーティングにおいて、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。 ● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。 ● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。 ● 地域の関係機関との会議に出席し、連携力の向上と情報収集に努めます。 ● 必要に応じて事業所内研修を実施し、職員のスキル向上を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個別の利用者のケース会議を毎月実施し、支援の方向性や目標設定の見直しを適宜行いました。苦情については、毎月の苦情について原因や対応方法について振り返りを行いました。 ● 35 名の実習生を受け入れました。 ● ヒヤリハットの集計と振り返り、軽微なケガ等の確認を適宜行い、職員、利用者共に大きな怪我などの事故は発生しませんでした。 ● 地域の就労支援や相談支援に関する会議へ出席し、情報交換等を行いました。 ● 支援力の向上やパソコンスキルの向上に関する事業所内研修を 4 回実施しました。

(5) 2017 年度事業目標

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 自立訓練事業のニーズ調査や事業継続性の検証の結果、平成 29 年 4 月に自立訓練事業を廃止し、就労移行支援事業の定員を 20 名に増員させます。 ● 自立訓練事業の廃止と就労移行支援事業の増員に伴い、就労支援に関するプログラムの充実を図ります。
1) 就労移行支援事業 (20 名定員)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規利用者 10 名を受け入れます。 ● 1 日あたりの平均利用者数 18 名を目指します。 ● 年間 10 名の就労者を輩出し、就労支援機関としての認知度向上を目指します。 ● 10 名の利用者に施設外実習の機会を提供します。 ● 障害者就業・生活支援センターやハローワーク等と連携しながら、横須賀・三浦地域での職場開拓に取り組みます。 ● 就職活動や就労に関するプログラムの割合を増加させ、就職活動や就労準備性の向上にこれまで以上に注力します。
2) 定着支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 就労者一人一人に合わせた支援をプランニングし、就労後 1 年間の定着率 90%以上を目指します。 ● 就労者を中心としたイベント等の開催を企画し、ミラークよこすかと就労者の繋がりを強化することで就労支援に生かします。

3) 運営全体	<ul style="list-style-type: none">● 日々のミーティング等で、支援や苦情内容の振り返りを行い、事業所としての支援の在り方を適宜検証していきます。● 年間 15 名以上の実習生を受け入れます。● 事業所内における災害ゼロを目指し、職員・利用者共に安全に対する意識向上に努めます。● 地域の関係機関との会議に出席し、連携力の向上と情報収集に努めます。● 必要に応じて事業所内研修を実施し、職員のスキル向上を図ります。
---------	---

2. 2016 年度事業報告

(1) 利用者の状況

就労移行支援事業では、年度内に 17 名が新たにミラークよこすかの利用を開始した。1 日あたりの平均利用者数は 15.1 名。年度初めの新規利用が比較的多いものの、年間を通して新規利用者を受け入れた 1 年であった。

自立訓練事業では、2017 年度に事業廃止（後述の 2017 年度に向けて参照）の可能性があったため、新規利用者の受け入れは年度初めのみとなっている。

利用者の障害種別は知的障害が最も多く、全体の 8 割を占めている。年齢層は 10 代～20 代が 8 割を占めている。居住地は事業所所在地の横須賀市が最も多く、横浜市在住の利用者が占める割合も小さくない。

表 1.月別利用者動向（就労移行支援事業）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用		5	1	1	2	2	0	0	1	0	1	3	1	17
退所	就労	0	1	3	0	0	0	0	1	0	2	0	2	9
	その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3
利用者数		15	16	16	15	16	16	16	17	16	17	17	18	

表 2.月別利用者動向（自立訓練事業（生活訓練））

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規利用		1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
退所	就労移行支援への事業移行	1	2	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	8
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
利用者数		7	8	8	7	5	5	4	4	4	3	2	2	

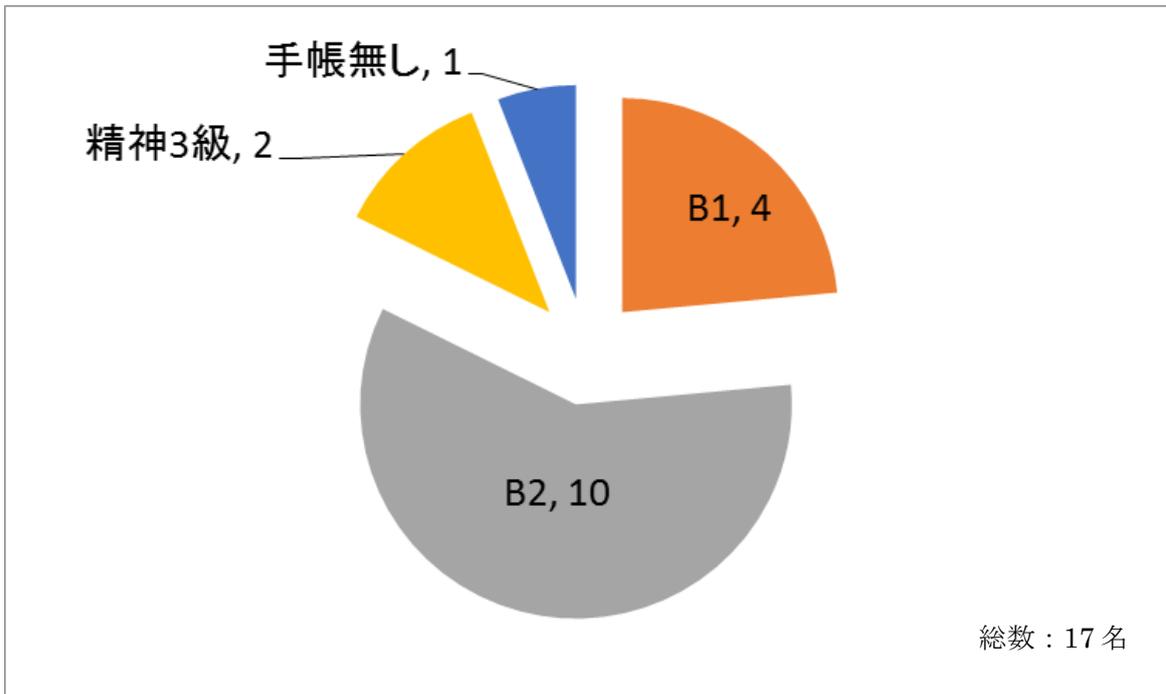


図 1.利用者障害種別 (2017年3月31日現在)

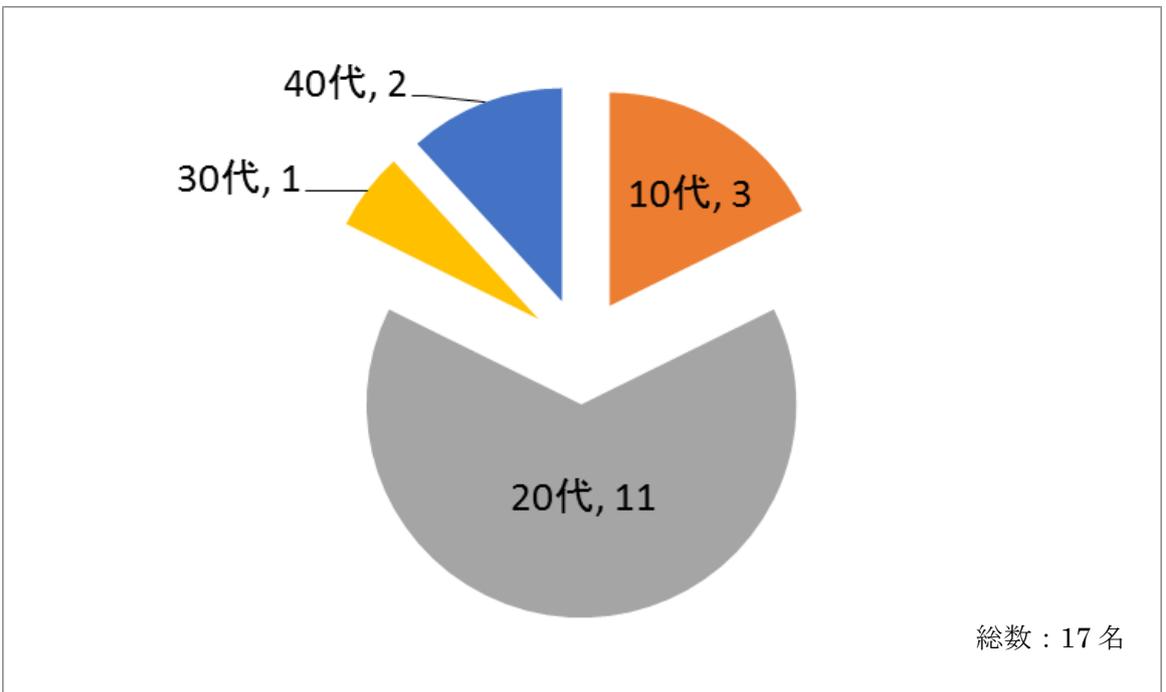


図 2.利用者の年齢層 (2017年3月31日現在)

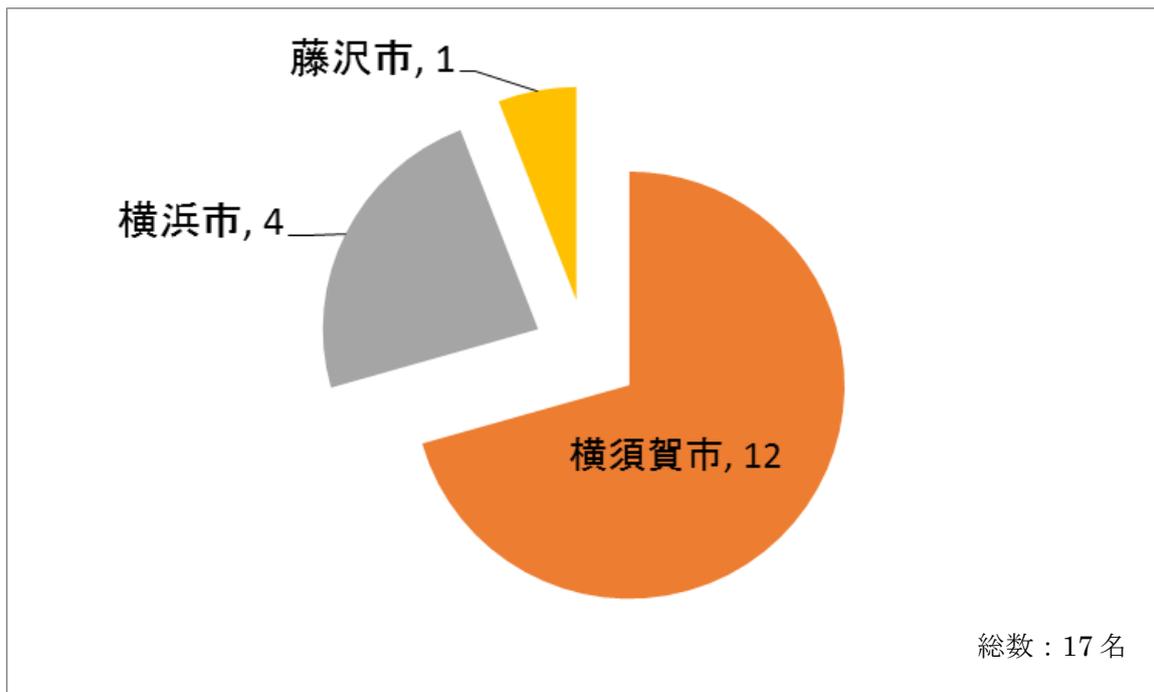


図 3.利用者の居住地 (2017年3月31日現在)

■ 就労アセスメント

2016年度は、7名の就労アセスメントを実施した。ミラークよこすかの就労アセスメントは、就労への可能性を評価することを目的に1~2週間の利用契約を結び実施した。就労アセスメントを実施した利用者の内、3名が就労移行支援事業等を実施することで、一般就労の可能性があると評価を行った。

表 3.就労アセスメントの実施状況

紹介先	人数	居住地	人数
養護（特別支援）学校	4名	横須賀市	4名
相談支援事業所	3名	横浜市	1名
		葉山町	2名

(2) 訓練プログラム

(1) 訓練のスケジュール

訓練は月曜から金曜（祝日を除く）9時から15時までとなっている。

9:00~9:10	体操・朝礼	12:45~13:45	訓練
9:10~10:30	訓練	13:45~13:55	休憩
10:30~10:45	休憩	13:55~14:55	訓練
10:45~12:00	訓練	14:55~	終礼
12:00~12:45	昼休憩		

(2) 訓練内容

➤ 作業訓練

作業訓練は軽作業ワークサンプル（6種類）、事務作業（PC作業含む）、環境整備（清掃、備品管理等）、外部からの受注作業を行っている。

【CD】



【トレーディングカード】



【ビーズ】



【納品チェック】



【ピッキング】



【メール仕分け】



【事務】



【環境整備】



【受注作業】



➤ 施設外作業（就労移行支援事業のみ）

近隣の飲食店で開店準備作業、昼時の食器洗い等の体験実習を行っている。

➤ 講座

2016年度より新たに講座プログラムを導入した。作業訓練では学ぶ機会の少ない内容を抽出し、就労に向けた訓練をより効率的に実施することを目的としている。講座は3ヶ月で全12回（隔週プログラムは全6回）開催し、年間4サイクル実施した。受講講座は選択制とし、利用者本人の希望や課題感について職員と話し合いの上決定する。また、3か月ごとに状況に合わせて受講内容を見直す形をとっている。

【2016年度 講座時間割】

	月	火	水	木	金
9:15 ～ 10:30		コミュニケーション	スピーチ		ビジネスマナー (スタートアップ)
10:45 ～ 12:00	スピーチ	ビジネスマナー (スタートアップ)	ビジネスマナー (ステップアップ)	楽しく元気に働く ための生活講座	コミュニケーション
13:55 ～ 14:55	色々な仕事を 知ろう	ディスカッション (隔週) 私の取扱説明書 (隔週)	仕事の進め方	就活講座	働く事例検討 (隔週) 健康な体をつくろう (隔週)

【スーツデイ】

ミラークよこすかでは、年に数回スーツ着用での外出プログラムを実施している。2016年度は障害者雇用を実施している企業4社にご協力いただき年間4回の企業見学を行った。見学会では、働いている現場の見学に加え、経営者や人事等のご担当者から社員に求めるもの等についてご講義いただく等、ミラークよこすかにとって重要なイベントとなっている。

<見学にご協力いただいた企業>

株式会社 京急ウィズ 様
株式会社 高島屋 様
株式会社 日立ゆうあんどあい 様
第一生命チャレンジド 株式会社 様

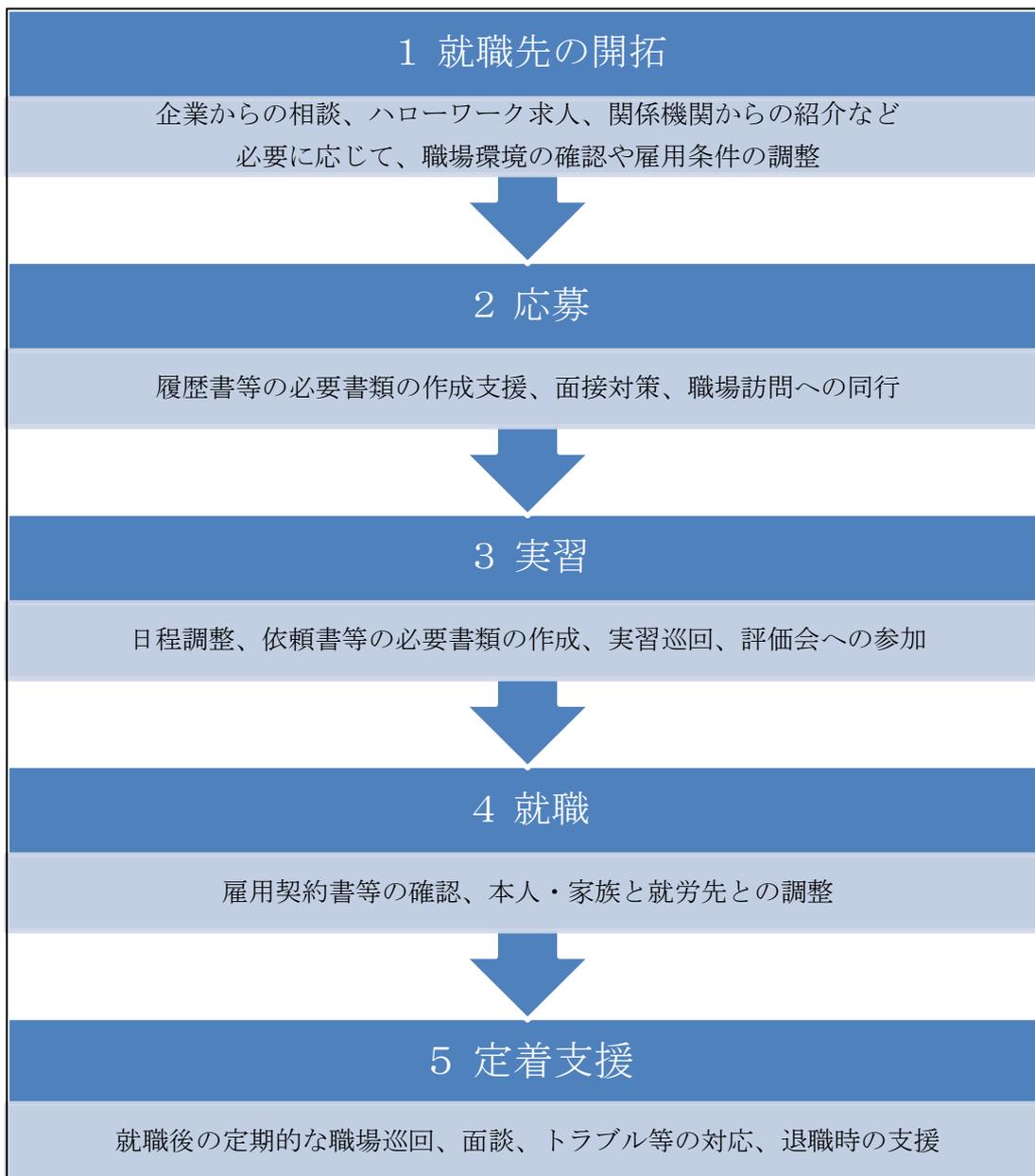


(3) 就労支援と定着支援

① ミラークよこすかの就労支援の流れ

ミラークよこすかの就労支援は、基本的に以下の流れで実施している。

一般就労を果たした方は、採用に伴いミラークよこすかを退所することになるが、就職後の支援もミラークよこすかが中心に行う。



② 2016年度の就労実績

2016年度は9名の利用者が一般就労を果たした。9名の就労者については、今後も引き続きミラークよこすかの職員が職場定着のための支援を継続的に実施する。

表 4.2016年度の就労実績一覧

	就労先	仕事内容	ミラークよこすか在籍期間
1	特定非営利活動法人 一麦	清掃業務	15 か月
2	株式会社 三本コーヒー	軽作業業務	15 か月
3	株式会社 崎陽軒	調理補助作業	14 か月
4	株式会社 崎陽軒	調理補助業務	14 か月
5	株式会社 崎陽軒	調理補助業務	7 か月
6	ゼビオ 株式会社	バックヤード業務	21 か月
7	新生ビルテクノ 株式会社	事務補助・清掃業務	21 か月
8	株式会社 あきんどスシロー	厨房業務	9 か月
9	株式会社 三本コーヒー	出庫・事務補助業務	8 か月

③ 定着支援と離職の状況

ミラークよこすかでは、就労後期間を定めず定着支援を行っており、定期的な職場訪問（1～3ヶ月に1回程度）、面談、就労先・ご家族・他の支援機関との連絡調整等を行っている。2015年の開所以来、13名の利用者が就労した。

2016年度は1名が離職し、就労から1年以内の離職となった。離職の状況や支援の経過を振り返り、可能な限り上手く働き続けられる支援を行えるよう支援力向上に努めていきたい。

<開所以降の就労者の状況>

	2015年度	2016年度	合計
就労者数	4名	9名	13名
離職者	0名	1名	1名
在職者（2017年3月31日現在）	4名	8名	12名
在職率	100%	88%	92%

3. 2017年度に向けて

(1) 自立訓練事業の廃止と就労移行支援事業の定員増

2015年度より、就労移行支援事業の定員数の少なさが課題となっており、2016年4月に就労移行支援事業を定員14名(12名より変更)、自立訓練事業を定員6名(8名より変更)とした。また、2016年度も7月から8月に掛けて定員数を上回る利用希望をいただき、利用をお待ちいただく状況となった。半面、自立訓練事業を自ら希望される方は非常に少なく、定員を満たしていくことが困難であった。さらに自立訓練事業を利用される方の多くが利用から1年以内に就労移行支援事業へ事業移行しており、多くの方がプログラムの運用方法により就労移行支援事業だけの利用でも支援が可能であったと判断した。それらのことから、2017年4月1日付で自立訓練事業を廃止し、就労移行支援事業(定員20名)のみを実施することを決定した。

(2) 2016年度の支援プログラムと改善点

2016年度は、講座プログラムの開始、作業訓練の種類の実施など大幅なプログラムの拡充を行った。施設内での訓練の幅は非常に広がったと考えている。また、就労者も9名を輩出でき、多くの利用者を就労に繋げることができ、数的な結果としては充実した1年であった。ただ、支援の一つ一つを振り返ってみると、就労に結び付くまでに必要以上に時間がかかってしまうことや、これまでの職歴や離職の要因等を振り返る機会を利用者に提供できていないことが見受けられた。それらの状況から、2017年度は働くことや自分自身を理解することをプログラムに取り入れることとした。

(3) 新プログラムの導入

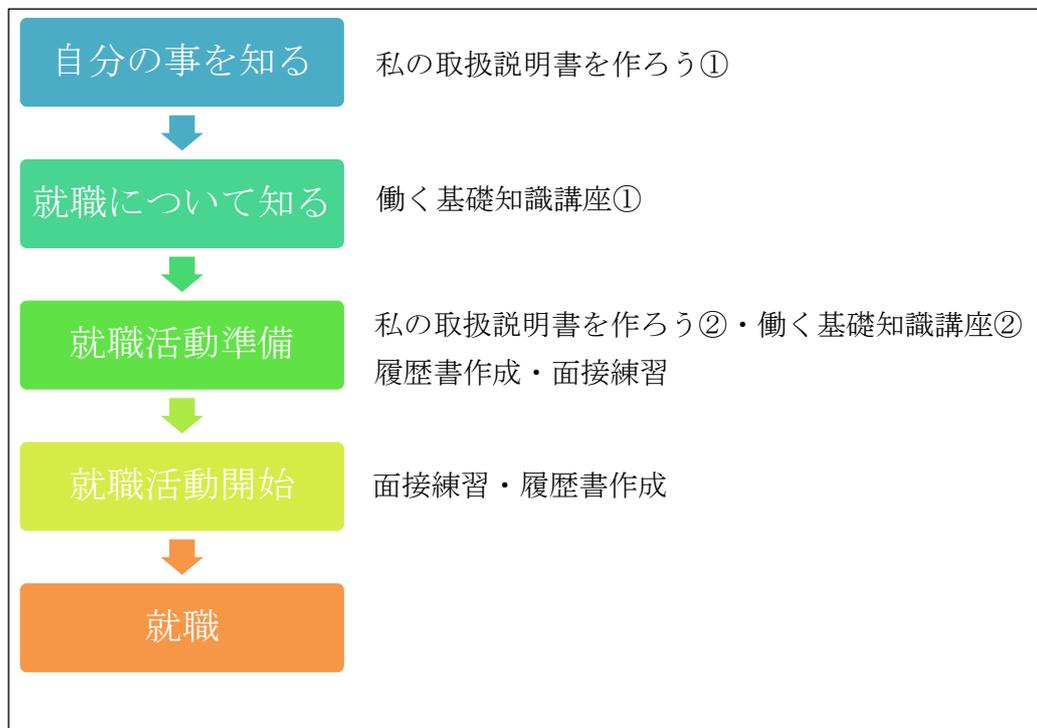
就ナビ(就職ナビゲーション)

先に述べた通り、ミラークよこすかでは、これまでの職歴や前職の離職理由をあまり考えずに就職を目指している利用者への支援に課題を抱えていた。そのため、履歴書を上手く書けない、ミラークよこすかを利用するまで離職を繰り返している等の要因になっていたと考えられた。それらの課題へ取り組むため、2017年度より新プログラムとして就職ナビゲーション(以下、就ナビ)を開始することとした。

就ナビは、まず利用開始直後より、これまでの職歴や前職の離職理由等(新卒者は学校での評価等)を振り返り、自分の状況を知るとともにこれからミラークよこすかでどのようなことに取り組んでいくか、どのような課題があるのかを明確に

する。次にこれから目指していく就職（働くこと）がどのようなものかを知り、徐々に面接練習や履歴書作成等の実践的な訓練へと移行していく。

<就ナビの流れ>



<就ナビ プログラム一覧>

私の取扱説明書を作ろう①	自分のことを整理、確認することでこれから取り組むことを考えます
働く基礎知識講座①	働くことそのものや雇用条件等を知り、就職について現実的に考えます
私の取扱説明書を作ろう②	面接や働き始めた時に配慮して欲しいこと等を伝えられるようにしていきます
働く基礎知識講座②	給与、社会保険等についての知識を身に付けます
履歴書作成	必要に応じてサポートしてもらいながら履歴書を作成します
面接練習	繰り返し面接練習を行います